

活動報告書

報告者氏名：水村 将太 所属：埼玉県立大宮北特別支援学校 高等部 記録日：H25年2月27日

【対象児（群）の情報】

- ・学年 高等部2年
- ・障害名 知的障害を伴う自閉症
- ・障害と困難の内容
平仮名を書いたり読んだりする事ができるが、癖のある字体の為、本人でさえ読み間違える事がある。

【活動目的】

- ・当初のねらい
字を書いたり読んだりする事に意欲的ではあるが、自分で書いた字は癖が強い為、読み間違える事がある。クラスメイトから注意されたり教員から指導を受けると落ち込みやすい性格なので、字の読み書きに対し苦手意識を持つ可能性が考えられた。その為、注意を受けやすい課題を褒められる機会になるように、正しい字体を繰り返し練習し、「自分の書いた字を間違えずに読める」事を目標に取り組む事にした。
- ・実施期間
1学期～2学期
- ・実施者
水村、藤原
- ・実施者と対象児の関係
水村（担任）藤原（自立活動担当）

【活動内容と対象児（群）の変化】

・対象児（群）の事前の状況
 字を書く機会は一日の中で今日の日程を連絡帳に写すのみである。自分で活動できる為、特に教員がついて指導する事はほとんどなかった。

・活動の具体的内容
 今年度より時間割の中に個別学習（自立活動）の時間が組み込まれた。その時間を使って、自立活動担当の藤原先生に個別対応してもらい、癖字になってしまう原因を探ってもらった。その結果、字体の誤った認識と指先が上手く使えていない事が原因と考えられた。

具体的な取り組みとして、週1時間の個別学習の時間と昼休み等の空き時間を使い、下記の内容を行った。

①癖のある字体から正しい字の形を意識させる為、ipad のアプリ「久我弘美先生の文字練習長」を使い、なぞり書きの練習

②指先、手首を使う事を意識させる為、正しい姿勢作り

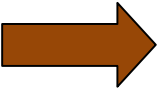
・対象児（群）の事後の変化
 ipad を使用してなぞり書きの練習をする際、初めた頃は教員がついて学習していたが、操作の流れを理解し、自分で取り組む事ができるようになった。うまく書けるとアプリから正解の音がる為、それがうれしいようで、意欲的に取り組む事ができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき
 ipad の役割として、正しい字体の習得を考えて取り組む事にしたが、鉛筆やペンと違って、自分の指をつかって字を書く事で「やさしく」や「ゆっくり」を意識して取り組む事ができた。その為、字体の筆圧をコントロールする事ができるようになり、結果的には ipad の操作方法が指や手首を使おうとする意識付けにもなったように感じる。また、ipad がある事で一人で学習に取り組める事ができるようになった事がクラスにとって大きい反応だった。個別学習とはいえ、1対1対応ができるわけではないので、どうしても空きの時間ができてしまう。そんな時間を自分から学習できればと思っていたが、ipad はそれを可能にしてくれたと感じている。

・エビデンス（具体的数値など）
 1学期から取り組みを始めたものの、字体の変化はなかなか現れなかった。2学期の終わり頃、「〇〇くん、やさしくね」の声かけをすると、本人から「やさしくー？」の反応があり、（これまでも声かけはしていたが、反応はなかった）字体の変化が現れ、力を抜いて記入する事ができるようになった。2学期中は、「やさしくね」の声かけをしないと字が固くなってしまう事があったが、3学期に入ると、声かけをしなくても下記のような字体で書けるようになった。

月	日	曜日	天気
10	10	日	晴
今日の学習			
1	あ	い	う
2	え	お	か
3	き	く	け
4	こ	さ	し
5	せ	そ	す
6	て	と	ち
7	な	に	ぬ
8	ね	の	ほ



付けるようにタッチ。その頃から「やさしくね」の声かけに定着し、声かけに応じ、ゆっくり字を書くようになったように感じた。